

## 日本小児血液・がん学会 第2回理事会議事録

日 時：平成24年4月6日（金） 13：00～17：00  
場 所：アフラックペアレンツハウス浅草橋2階セミナールーム

出席者：石井 榮一（理事長）

池田 均、今泉益栄、小原 明、菊地 陽、工藤寿子、黒岩 実、嶋 緑倫、  
滝 智彦、中澤温子、野崎美和子、細井 創、真部 淳、米田光宏  
（以上理事）

伊藤悦朗、福澤正洋（以上監事）

加藤俊一 第54回学術集会会長

小田 慈 第56回学術集会会長

欠席者：越永従道（副理事長）、足立壮一（理事）

田口智章 第55回学術集会会長

まず委託先のがんの子どもを守る会の中村事務局長より、守る会が公益財団法人に変更されたことならびに担当者の変更について報告された。

議事録署名人の選出

議事録署名人として工藤寿子先生、米田光宏先生が選出された。

### I 協議事項

1. その他：特になし

### II 報告事項

1. 庶務報告：事務局より現在の会員状態ならびに賛助会員について報告された。  
賛助会員については庶務委員会の越永先生に連絡をし、各社にコンタクトを取っていただくこととなった。

なお、新入会についても問題なく承認された。

2. 前回理事会議事録の確認：議事録について確認され、問題がある場合は事務局まで連絡することとなった。

3.

1)財務委員会:池田財務委員長より現在 2011 年度会費徴収を行っていることが報告された。

2)規約委員会:野崎担当理事より下記の報告がされた

- ・事務委託契約書について説明がされ、4月1日に遡って契約をすることが確認された。
- ・中西印刷との個人情報契約について確認され、一部修正を行い、4月1日に遡って契約を行うことが確認された。

なお、両方の契約書について表現方法等の違いは再度規約委員会が持ち帰り、検討することとなった。

3)編集委員会:嶋担当理事より下記の報告がされた。

- ・投稿原稿査読依頼書について承認された
- ・第二号までは前合同委員会からの引き継ぎとなっている。
- ・二号は学会発表をされた先生の論文を掲載することとなったが、かなりのボリュームのため、すべての原稿がそろうかが焦点となる。
- ・目次については報告を表紙に掲載すると字が小さくなるため目次に入れるという意見が出されたが、委員会にて再度確認をすることとなった。
- ・巻数については、大きい数字を引き継ぐこととなり、49巻となることが確認された。

4)学術教育委員会:細井担当理事より下記の報告がされた。

- ・第二回学術賞応募要領について説明され、締め切りは7月31日(火)当日消印有効
- ・自薦、他薦による応募が第一だが掘り起こし作業について委員会内にて討議され、共通分野・小児血液分野・小児がん分野計15冊が報告された。
- ・PBCO (SIOP official) を入れた方が良いのではないかとの意見があり、入れることとなった。
- ・基礎系の雑誌は無くても良いのかという質問がされ、インパクトファクター5以上を目途として再度 PICKUP を行う。
- ・掘り起こし作業はあまり率先して行う事ではないので、雑誌を増やすのは好ましくないとの意見が出された。
- ・基礎ならびに臨床の線引きについて学術・教育委員会にて提出され、承認された。
- ・海外の先生との共同研究についてはコレスポンディングオーサーが日本研究機関に所属していることが必要であることが確認された。
- ・委員会内規を作成し、委員会内で検討することとなった。

5)学術プログラム委員会

事務局より次回理事会にて三年後の会長募集要項を確認することが報告された。

3回に1回は外科なので内科系の次は外科。

6)保険診療委員会：黒岩先生より資料の通り報告された。

また、緩和ケア診療についてはどういう形で適用されるかが分からないとの意見が出され、拠点病院で2日間研修を受けた先生が診療したことが条件ではないかと報告されたが、詳しい内容については再度確認することとなった。

7)専門医制度委員会

○菊地委員長より暫定指導医について下記の通り報告された。

- ・ 第二回暫定指導医は2月1日から2月29日まで行った。
- ・ 小児血液・がん学会誌に1号に掲載予定のものを学術業績として記載した先生がいたが、発行が出来なかったのは学会の都合のため、問題なく承認することとなった。
- ・ 暫定指導医がない県があるため、研修施設が出来ないため、専門医制度委員会から働き掛けを行うこととなった。
- ・ 未だ暫定指導医の数が少ない都道府県があるため、今年度中にもう一度募集を行うことについて委員会にて検討をしたいとの意見が出され承認された。
- ・ 三回行った場合、どれだけの施設が増えるのかと質問が出された  
→どれくらい増えるかは分からないが、全くいない県があるうえ、今後移動も出てくる。また、現在の暫定指導医の年齢層が上のため、今後専門医を指導できるかが分からないと報告された。

○米田副委員長より認定外科医について下記の通り報告された。

- ・ 4月1日～30日で現在募集中。
- ・ 5年後をめどに認定施設には小児外科認定医が常勤していることを条件にすると、認定が出来ない施設も出てくるかもしれない。
- ・ 小児外科学会のHPにも現在掲載中。
- ・ 数が少ないので毎年募集を行なう

○研修集会研修単位認定申請について下記の通り小田先生より小児の演題が5題以上なければいけないことが報告された。

○緩和ケア研修等に関する事業について菊地担当理事より報告された。

- ・ 年に二回程度緩和ケア研修を行いたい。
- ・ 小児病理医が一般病理医に対して診断治療に関することの講習を行いたい  
→既に病理学会で同じようなことを行っている
- ・ 放射線については教育講演内に必ず行われている。
- ・ 運営委員会の構成メンバーについては小児麻酔科学会、小児心身医療を追加することとなった。

- ・専門医研修会は一回開催予定。

○e ラーニングについて

- ・癌治療学会が取りまとめをしており、学会として参加をしてほしいという意見がされた。
- ・専門医制度機構内で、がん専門医について定義づけがされていないため、あまり先急ぐことはよくないのではないかとの意見が出された。
- ・専門医の認定について混乱が起こるのではないか。
- ・大人のがんを見ている医師も小児についてみた方がいいのではないか。
- ・認定医機構なので、専門医ではない。きちんと線引きをした方が良い。
- ・専門医制度としては参加をしないという事が確認された。

8)国際委員会：真部委員長より下記の通り報告された。

- ・ASPHO の学会誌を **official journal** にするのはいいのではないかと将来計画委員会よりの報告を受け、交流すべき推進をしていく。
- ・**Official journal** にした場合、どの程度金額がかかるかを確認する。
- ・**SIOP** アジアに入るかどうかについては、今後検討を行う。
- ・海外在住の患者については現状が全く分からないため、ワーキンググループを設立か、学会の最中に確認を行うか等について、今後委員会にて検討することとなった。
- ・**APEC** の今年のテーマが小児がんなので、ロシアと日本との交流を行おうという意見が先方より出され、5月のウラジオストックでの会議に石井理事長・水谷前小児血液理事長・鶴澤正仁先生・田口智章先生が参加をする。

9)社会・広報委員会報告：中澤委員長より下記の通り報告された。

- ・現在の **HP** に掲載されている内容について報告された。
- ・会員専用ページにきちんと入って、確認している人が少ないため、学会誌を送付時に **HP** 開設についてのお知らせの色を変えて投げ込み用紙を作成する。
- ・ホームページトップで学会が何を行っているか一般向けに情報を揚げる。

10)理事・評議員資格審査委員会報告：今泉委員長より下記の通り報告された

- ・評議員締め切りは9月末を予定している。  
→募集期間は1か月。
- ・雑誌発送時に評議員募集について同封発送を行いたい。
- ・フォーマットは小児血液ならびに小児がん学会の資料を基にして作成。
- ・副委員長が石黒精先生に変更した。

#### 11)診療ガイドライン委員会報告

- ・現在小児がんの診療ガイドラインならびに白血病のガイドラインが出ている。
- ・脳腫瘍については脳腫瘍学会で小児の脳腫瘍ガイドラインを作成中のため、行わない。
- ・固形腫瘍で外科治療のガイドライン。非横紋筋肉腫のガイドラインがないため作成して頂きたいとの意見が出された。→疾患委員会と相談する。
- ・転載依頼については行っても問題ないと確認された。
- ・著作権料が学会の収入になる

#### 12)疾患登録委員会：小原委員長より下記の通り報告された。

- ・現在研究計画書の改定を考えている。固形腫瘍は予後データを追わないという形になっているが、改定を行う。
- ・データ二次利用について厚労省より小児がんモデル病院整理についての検討資料として各核施設からの登録状況を使用したいと依頼があった。  
→資料提供を行うのは大事であるが、数が多い病院のみモデル病院に指定されるのは問題がある。  
→「出さねばならぬ」のか「協力する」なのかが分からない。  
→データをお渡しする際内容についてコメントを行い提出するべきではないか。  
→施設名まで求められていないのであれば、公開されているデータを渡すべき。  
全国の小児がんの数ならびに県別の数が知りたいことが確認され、公開されているデータをお渡しすることとなった。
- ・予算については昨年まで通り各所へ寄付をお願いすることの確認がされた。
- ・全国小児がん登録を行っていただきたいと別所文雄先生より依頼があり、小原先生が話し合いを行い、小児血液・がん学会では登録事業の継承は出来ないが、各地域のサポートを行うことが出来ないかと意見が出された。
- ・学会のサポートグループのような位置づけでサポートしていけばいいのではないかと意見が出された。
- ・研究チームなので、研究事業をお引き受けすることは出来かねると以前よりたびたび連絡を行っていることが再度確認され、理事長が別所先生と話し合いを行うこととなった。

#### 13)倫理委員会報告：特になし。

#### 14)利益相反委員会：特になし。

委員長が滝智彦先生に変更した。

#### 15)臨床研究審査委員会

野崎副委員長より資料の通り報告された。

今後審査依頼について内科・外科担当ではないものについて委員会内で一度審査を行っていただけるか確認することとなった。

#### 4.理事会諮問委員会報告

1)将来計画委員会：石井理事長より資料の通り報告された。

・賛助会員依頼について HP 広告費として趣意書を変更すればよいのではないかと意見され、検討することとなった。

#### 5. 疾患委員会報告

##### 1)造血細胞移植委員会

足立担当理事が欠席のため、資料について各自確認を行った。

##### 2)再生不良性貧血・MDS 委員会報告

工藤担当理事より資料の通り報告された。

##### 3)血小板委員会

今泉担当理事より報告された。

旧小児血液 ITP 委員会の際に作成していた ITP 冊子について 2 版を作成可能だが、収入となることを行うことはできないが、企業として寄付はできないが、冊子を購入することは可能であることが今泉担当理事より報告され、収入事業を行っても問題ないことが理事会にて確認され、進めていくこととなった。

4)止血・血栓委員会：特になし。

##### 5)白血病リンパ腫委員会

滝担当理事より資料の通り報告された。

6)組織球委員会報告：特になし。

#### 6.学術準備報告

1)第 54 回学術集会：加藤会長より資料の通り報告された。

・現在ランチョンセミナーが 13 社となり、後 2 社募集中。

・アジアからいらっしゃる方の参加費について理事会にて検討していただきたい。

→若い先生の travel については award をつけるので、MD の参加費については格差なし

で行う。

- ・教育セッションの費用については講師の先生への謝礼は専門医制度委員会より支払いが可能。
- ・特別講演ならびにワークショップについては英語で発表を行う。

2)第 55 回学術集会：資料の通り報告された。

3)第 56 回学術集会：2014 年 11 月最終週に行うことが報告された。

その他

1)日本小児科学会「遺伝学的検査検討ワーキンググループ」について  
滝先生より小児医療における遺伝学検査マニュアルについて出版を行う予定。教育的な場に取り上げて頂きたことが報告された。

2)がん対策推進協議会について

今後小児血液・がん学会の理事長が委員になることを提案され、承認された。

3)小児がん拠点病院整備委員会の委員について

現在まで委員を行っていた水谷先生に学会の代表として委員となることが石井理事長より提案され、承認された。

4)学会システム環境整備について

HP 上の構築について決定していない

研修単位については会員カードにて定められる仕組みにする。

交通費については、ANA などと提携をして

詳しい話については次回理事会にて報告。

5)第 53 回学術集會会計報告について

- ・1,600 名参加のうち医師参加は 900 名
- ・看護師の参加が少なかった。
- ・教育セッションが多かったため、一般演題が少なかった。

次回理事会は時間については 12 時 30 分～17 時 30 分予定